

Ⅲ-41 京葉工業地帯の地盤構造と土質

東京大学生産技術研究所 正員 三木五三郎

新しく臨海工業地帯を開発するに際して、あらかじめその地盤構造と土質を十分に調査しておくことは、施設の規模や配置を適正に定め、経済的な施工を行なつてゆく上に必要かつこののできなり要件である。

この見地から千葉県船橋市は、昭和34年度の後半から昭和36年度にかけて、京葉工業地帯の地盤調査を大規模に実施してきたが、筆者はその立案から調査結果の解析に至るまで参画し、現在ほぼその作業をおえる段階に達したので、ここに得られた成果の概要を報告する次第である。

なお本調査を実施するに当って、地質学的および地形学的な面については、千葉大学の成瀬洋および都立大学の貝塚英平両氏との共同研究として進めてきたものであることを特記しておきたい。